



「災害から水道を守る」特集

＜タイ・メンバー交流ウィーク の活動＞

2011 年 3 月日本は前例のない地震と津波に襲われ、東北地方の多くの水道施設が甚大な被害を受けました。その時、多くの水道関係者が被災地に馳せ参じ、応急給水と復旧に協力しました。また多くの国からの支援が集まりました。同年 10 月にはタイ中心部をやはり前例のない大洪水が襲い、バンコクを含む首都圏地域の水道関係者は水道の被害を最低限に抑えようと必死の努力をしました。その時、水道公社の呼びかけに応じて多くの市民が駆け付け、また日本をはじめ近隣諸国、国際機関からの支援の輪が広がりました。

この二つの大災害にたいし、WaQuAC-NET では東日本大震災は会報 11 号、12 号で、タイの大洪水は会報 13 号で特集を組んで情報を発信してきました。

今回は大災害に遭遇して、生命維持や生活になくならない水道を守るために、水道関係者はそれぞれ何をし、何を思ったのか。タイ MWA(首都圏水道公社)の職員で洪水対策に貢献した 2 名を招き、発表と交流を通して、私たちは貴重な経験を学ぶことができました。仙台市では水道局職員と災害の現状とその対策について意見交換をしました。また、被災地の一つである石巻市を視察しました。

その活動と成果は 2008 年に始まった WaQuAC-NET 活動の中でも特筆すべきものとなりました。以下に目的、活動日程、そして反省を記述します。活動の詳細は次ページからの参加者の投稿をお読みください。

1. 目的:

- ① タイの大洪水での MWA の対応について学ぶ。
- ② 東日本大震災で被害を受けた仙台市水道局と意見交換し、教訓を共有する。

- ③ 二つの経験を多くの人に発信する。

① 交流ウィークの日程:

4 月 2 日 (月)	06:00 招待者羽田着 ミニツド打合せ WaQuAC-NET 歓迎会
4 月 3 日 (火)	プチ講演会(水道協会) 第 6 回ミニツド(小集会) (暴風雨で中止)
4 月 4 日 (水)	石巻市で被災地視察 仙台市で元専門家と懇親会
4 月 5 日 (木)	仙台水道局訪問、発表と意見交換 被害を受けた配水池等視察 東京へ戻る
4 月 6 日 (金)	花見 WaQuAC-NET 送別会
4 月 7 日 (土)	11:00JL717 成田発

● 招待者:

Ms. Sivilai Kitpitak (MWA 水源環境部環境課長)

Ms. Nisapas Wongpat (水質部水質向上課長)

3. 反省:

- ① 発表者の資料の準備が良く、状況や活動が理解しやすかった。
- ② 多くの協力者に恵まれた。特に仙台市水道局、日本水道協会の協力によって新年度早々にも関わらず、充実したものになった。
- ③ 自治体との協力の実績ができた。
- ④ 準備期間が短すぎたにもかかわらず、計画通りにほぼ実施できたが、時期が新年度スタート時で、参加できない人が多くいた。
- ⑤ ミニツド中止の連絡が不十分だった。

(山本敬子 事務局)

★ タイから WaQuAC-NET 活動に参加して ★



その 1) 日本の“四季”を旅して ニサバット・ウォンパット (MWA・タイ)

4 月のタイは一年で一番暑い時期なので、WaQuAC-NET から招待を受けて大喜びしました。さらに今まで桜を見る機会がなかったのでワクワクしました。

講演の準備は、スムーズでした。外国人向けにパワーポイントによる発表資料を作っていたし、数百枚の写真と膨大なデータを持っていたので、それらを使って 20 分用の発表資料に編集し直すだけでした。

バンケン浄水場近くに洪水が押し寄せるところから始めて、水質管理に移り、次にはソーシャルネットワークがどのように私たちを助けたかを強調して作りました。

来日初日、WaQuAC-NET の担当者と打ち合わせをした時、喫茶店で飲んだ熱い抹茶ラテや夜の歓迎会で久しぶりに旧友にあって、とてもリラックスできました。旧友との再会は、私がまだ若い女性で、日本の旧友たちも日本から来た若い専門家という当時の感覚に戻りました。雰囲気は温かく居心地の良い友情に包まれていました。(オイシイ、私が今までに見た中でもっとも大きい鮎種もありました。) その時、私は次の日に予期せぬことが起きるなど予想だにしませんでした。

火曜日の午前中、山本さん、佐々木さんと桜が見えるレストランでランチを取り、講演のために水道協会に戻ったときに、政府の暴風雨注意情報に何人かが参加を取りやめたことを知りましたが、私はそんなにひどくなるとは気が付きませんでした。会場にうわさが流れ、一人また一人と聴衆が出て行きました。それでもインドネシアから来て、大学院で学んでいる一人の聴衆と災害時のボランティア募集につ

いて経験を交換するという貴重な機会を得ることができました。

ついに講演会を予定より早く終わらせ、そしてその後に予定していた WaQuAC-NET の集会は中止となりました。WaQuAC-NET の担当はホテルへ戻るのが大変だと言いました。その時でも私はタイとくらべて風が少し強いが普通の雨だと感じていました。雨はそんなにひどくはなかったのですが風が非常に強くなりました。幸運にも強風は傘を飛ばしても日本で増えていた私の 60kg の体を飛ばすことはできませんでした。

前の夜には嵐の兆候もなく、朝には日が射していたのに、突然やってくる暴風雨に驚きました。次の日、仙台に向かっている時には雪が降ってきて更に驚きました。

1 日のうちに季節が変わり、まるでヴィバルディのバイオリン協奏曲の“四季”のようでした。

次の日に仙台近くの石巻の被災地を訪れ、私は人間の力以上の自然の巨大な力によって引き起こされた悲惨な結果を見て、バンコクの洪水は小さな災害で、しかも人間の対応に問題があったと結論付けました。そして今後、タイの水道関係者が皆、適切に対処して、二度と被害を出してはいけないと思いました。



考えるニサバット

仙台市水道局との話し合いで、彼らが強調した事の一つは人のネットワークの重要性でした。これには全く同感でした。仙台での発表では浄水場に影響を及ぼす災害に対して段階的に準備する重要性を学びました。

MWA は仕事のすべての局面に WSP(水安全計画)を取り入れていく計画を立てています。これが実現することを願っています。そして今後ひどい災害等が起きた時にはいつでも日本のように段階的に適切に対応していけるように。最後に WaQuAC-NET、日本水道協会、仙台市水道局そして昔一緒に仕事をした懐かしい友人達により、このような機会を与えていただいたことに感謝します。

これは小さな一つのステップですが、私は MWA のための大きな飛躍をもたらす、第一歩にしたいと思います。

その 2) いつも日本で思い出す NWTTI プロジェクト シビライ・キブタック (MWA・タイ)

今回は私の 4 回目のモダンで美しい国、日本への旅でした。

いつも来た時には 1999 年まで続いたタイで最も成功した JICA 技術協力プロジェクト

“NWTTI プロジェクト”を思い出します。

今回私とニサパットは昨年タイで起きた洪水について発表し、会員間でどのように洪水災害を克服するかを意見交換するために呼ばれました。WaQuAC-NET の集会は準備も進み、4 月 3 日に四ツ谷で実施予定でした。不幸にも日本水道協会での講演会が終わった後、WaQuAC-NET の集会は中止されました。外はひどい風と雨だと知らされました。発表中、聴衆が一人また一人と少しずつ外に出て行くのは気づいていました。そしてついに、WaQuAC-NET と水道協会の担当者だけになりました。最悪の天候に政府は注意報を出していたのです。それでみんなが急いで家に帰らなければなりません。状況はだんだん悪くなり、いくつかの電車は止まりましたが、私たちは安全にホテルに戻ることができました。

振り返って、この状況から学んだこととして、私は次の言葉が思い浮かびました。“We try hard first and if there is a problem, we try our best to solve it.”

次の日仙台近くの海岸地区石巻を訪問しました。そこは昨年の 3 月 11 日の地震と津波によってひどい被害を受けたところでした。その次の日には仙台市水道局を訪問しました。災害時に対応に追われた職員の方とお互いの経験を共有しあった後、驚いたことに同じ結論になりました。“災害時には住民のネットワークが重要である”と。

日本を去る前の最後の印象ですが 幸運にも桜を見ることができました。最終日、上野公園の桜の下を歩きました。きついスケジュール後の満開近い桜の下で、私は充電されました。私たちはミッションを終えてハッピーでし



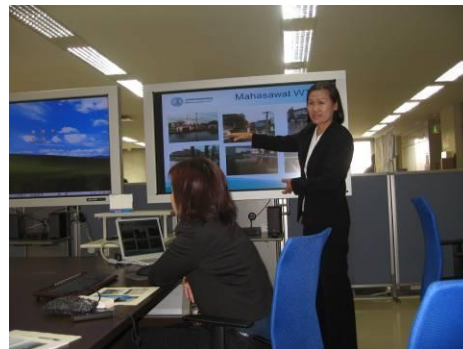
新幹線で仙台へ

た。

最後に私とニサパットは MWA を代表して、異なる組織から参加していただいた多くの皆様に感謝の意を表します。仙台市水道局、横浜市水道局、日本水道協会、そして WaQuAC-NET、特に山本さん、笹山さん、佐々木さん、ミナサン、アリガトー！



水道協会の集会で



仙台市水道局で説明

仙台市水道局との交流会と

被害箇所の視察

2012.4.5 仙台市水道局庁舎

その 1) 笹山 弘

(JICA ベトナムプロジェクト・
横浜市水道局)



2011 年タイと日本はどちらも未曾有の災害に見舞われました。それぞれの水道の被害そして復旧についてこれまでの会報で報じてきましたが、今回はタイ首都圏水道公

社(MWA)と仙台市水道局とが直接お互いの経験を語り合う場を持つことができました。WaQuAC-NET の活動にご理解をいただき、お忙しいなか、局長をはじめ、多数の幹部の方々に時間を割いていただき、タイとの交流の場を設けていただいた仙台市水道局に感謝いたします。



山内水道事業管理者とニサバット、シビライさん

局長以下幹部の方々との挨拶のあと、交流会の趣旨について山本代表から説明、MWA の二人からは東日本大震災への見舞いの言葉が述べられました。その後、場所を移してそれぞれの報告を行いました。バンコクの洪水については、これまでも MWA の二人のレポート、水道協会での講演会と事情は分かっているにもかかわらず、何度聞いてもその規模に圧倒されてしまいます。それにもまして、市民ボランティアと一緒に MWA が水道の危機を乗り越えるための活動を続けたことに感動しました。通信インフラが影響されなかったこともあり、WEB やソーシャルネットワークサービスを活用して市民に水道の状況をすばやく伝えた点も特筆に値します。それだけネットが浸透していることでもあり、災害時の情報伝達をマスコミ発表に重点を置いている日本との違いを感じました。確かにスピードを求められるときに、ネットは有力なツールですが、どこまで多くの人に伝わるのか不明なのと、即時に情報をネットに流すとマスコミ報道と内容に差が出てしまうことを懸念して、日本ではまだ二の足を踏んでしまうようです。水処理では規模の小さいサムセン浄水場では WaQuAC-NET の日本メンバーからのアドバイスに従い、処理量を低くし、凝集剤を増やすことで、凝集効果をアップする方法を採用し、うまく処理できたという報告がありました。現地には各国からの援助、協力チームが入ってさまざまな協力をしていましたが、WaQuAC-NET も役に立てて大変うれしいです。ネット上の、しかもリアルタイムではない活動ながら、趣旨に沿った働きができることを今回の例が示してくれました。

私は 2010 年からベトナムのプロジェクトで活動しているため、東日本大震災による被害については、主にネットのニュースでしか知りませんでした。今回、仙台市水道局の被害と復旧について説明をいただき、その実情を初めて知りました。MWA の二人にとっても、地震、津波による水道の被害を詳細に知るのは初めてのことで、熱心に説明に聞き入っていました。特に彼らが関心を持ったのが、自治体の防災計画と連動して水道の防災計画ができていて、最優先で給水を確保する拠点をどのように決め、運用しているのか、よく理解できたようです。また、仙台市水道の担当者からは、防災マニュアルはあっても、被災直後の混乱期には職員ひとりひとりの判断がとても重要だとの指摘があり、そうした点を考慮した人材育成が必要という認識を持たれたそうです。今後の防災計画にもこうした視点が必要になると思いました。



仙台市水道局の会議室で説明するニサバットさん

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

その2) 渡部 和彦

(仙台市水道局)

前夜の酒宴の様子はきつと佐々木さんが楽しくレポートしてくれることでしょうから、私からは 5 日のレポートです。



4 月 5 日、訪問団 5 名の皆様には、まず仙台市の山内晃水道事業管理者を表敬いただきました。山内管理者はこの 4 月の人事異動で初めて水道に着任したところでしたので、山本さんから今回の訪問経緯や WaQuAC-Net の活動といったことに加えて、水道分野での国際技術協力は地方事業体が担っているという実態を“佐々木さん・笹山さんという実例”を示してご説明いただいたことは、非常に新鮮かつ、仙台市の今後の国際貢献

にとって有益だったのではないかと思います。

場所を変えての意見交換会。仙台市の職員は新年度が始まって数日という落ち着かない状況でしたので、訪問団の皆様には申し訳なかったのですが、7～10 名程度の方が入れ替わりながらの参加となりました。

ニサパットさん、シビライさんのプレゼンテーションでは、まずはバンケン浄水場のあまりの広大さ、スケールの大きさに度肝を抜かれ、そのあとの水害の映像では、じわじわと上昇する水の恐怖、時間に追い詰められていく中での必死の対応がうかがわれました。不眠不休での肉体的疲労もちろんあったでしょうが、さらに心理的なプレッシャーもかなりのものだったのではないのでしょうか。

我々の体験した東日本大震災は、突然の地震の後は、津波、停電、降雪、コンビナートの火災、食料や燃料不足、おまけに放射能対応・・・次々と難題が押し寄せて、息も継がせぬドタバタの対応の連続。比べるとタイ水害が日本のホラー映画、東日本大震災がハリウッド映画みたいだなどと考えながら聴いておりました。

仙台市からのプレゼンは、新規採用 2 年目の河村さん



パワーポイントで説明する河村さん

の出番です。2 年目ということは、実は 2011 年 3 月 11 日現在ではまだ就職していなかった訳なのですが、彼女の英語力とスマイル、それに度胸に期待しての起用です。いかがでしたでしょうか。

意見交換では話が尽きず時間オーバーとなりながらも現場視察へ向かいました。

前日に津波被災地である石巻市を視察済ということで、仙台では地震で導流壁が倒壊し、エキスパンジョジョイントからの漏水、さらにその後の台風により道路の流失も受けた安養寺配水所と、ほとんどの柱に X 型のせん断破壊を受けた高層の市営住宅をご案内いたしました。とかく津波被害と原発がクローズアップされている東日本大震災ですが、地震そのものも非常に大きく、建設年代や立地条件、また構造物の固有周期によっては非常に甚大な

被害を受けているということもご理解いただけたのではと思っています。



安養寺配水所内で被害の説明を受ける

さて、このレポートをまとめるにあたり、やはり前夜の酒席に戻ったほうがよさそうです。そこには東北工大の今野弘教授、東北学院大学の石橋良信教授も同席されたのですが、今野先生との話の中で、仙台市の水道・下水道は W.K.バルトン師によって基本設計がなされたこと、設計から完成までに長期間を要したためか、残念ながらそのことが仙台の市民や職員にはあまり知られていないこと、我々が開発途上国に対して技術支援を行うことは、バルトン師の精神・気概を引き継いでの行為であることなどの話をいただき、国際協力への熱い思いを新たにしたのであります。



右端から今野先生、石橋先生、渡部さん

@@

その3) 河村 香苗

(仙台市水道局・発表者)

タイ MWA の方々に英語で震災についてプレゼンテーションをして欲しいと依頼されたときは、採用 2 年目の私がそんな大役果たせるのかとただ



ただ不安でした。しかしこんな良い機会はめったにないと思い、自信を持ってプレゼンを行えるよう上司や先輩職員の力を借りながら準備を進めました。特に英語に関しては時間を割いて準備をしたのですが、いかがだったでしょうか？

今回このような交流に参加して、私自身が得るものはたくさんありました。特にニサパットさん、シビライさんから伺った昨年の洪水時の対応には、すばらしい判断力とスピード感

を感じました。まだまだ水道に関する知識の浅いためでしょうが、原水の水質汚染に対応するために通常の浄水処理



ご協力いただいた仙台市水道局の皆さんと

前に原水を曝気し酸化剤を添加するという発想には私の想像の範囲を超える程驚きましたし、そのための設備を用意する速さにも驚かされました。

災害時にひとつ判断を間違えれば被害が拡大してしまうという状況の中で最良の判断を下すには、世界中のさまざまな災害対応の知識の積み重ねが結構役に立つのでは？と新人ながらに感じました。

震災のあった年に社会人生活をスタートさせ、これからの長い社会人生活の中でも様々な形で災害対応に関わることがあるかと思います。まだまだひよこの私ですが、視野を世界に持ち積極的にネットワークを作っていきながら、一人前を目指してがんばっていききたいと思います。

タイ MWA の ニサバット、シビライさんの来日

松井 庸司
(日本水道協会)



1、日水協でプチ講演会

去る 2012 年 4 月 3 日(火曜日)、タイ首都圏水道公社 (MWA) から、ニサバットさんとシビライさんが WaQuAC-NET の招待で来日した。これにあわせて、日本水道協会の 8 階第 5 会議室で、タイの大洪水に際して MWA が如何に対処したか、特に、水質業務を担当していた二人が浄水場でどのように対応したかについて、プレゼンテーションを行ってもら

い、意見交換を行うプチ講演会を催した。



水道協会での発表風景

山本敬子さんから、二人が来日するという話を聞き、折角だから、日水協で話す機会を設けられないかと考えたが、時間もあまりなく、結局、参加の呼びかけは、水道協会の中と近隣の幾つかの水道事業体などに限られた。そのため参加者は、ワクワクネットから山本さんと笹山(横浜水道)さん、東京都水道局から佐久間勝・設備担当部長、東京水道サービスから小島高志さん、東工大インドネシア留学生の Ms. Nirmala さん、日水協からは、水質課の工藤幸生、及川富士雄(北千葉広域からの研修生)、川口試験所長の宮垣融、国際課から富岡透、松尾圭将(横浜水道からの研修生)、大澤理恵と私、総勢 12 名で、少人数であった。

あいにく、当日は天候が強烈な春の嵐となって午後から大荒れ。帰宅ラッシュの時間帯に都内の電車がストップし、交通機関が大混乱。企業でも帰宅困難者をださないため社員を早目に帰宅させるところが多く、そうした情報のもと、二人の講演会も 15:00~17:00 の予定を早目に切り上げ、質疑の時間も取れないという残念な結果であったが、交流を深めるには十分であった。

2、MWA のタイ洪水への対応

二人は、パワーポイントを準備してくれていて、慣れた感じでプレゼンテーションをおこなってくれた。MWA が総裁のもと如何に統一の取れた対応をしたかがわかる真摯な発表を聞くことができた。

まず、総裁のもと基本方針として「浄水場を止めない」と言うことを決め、それを終始一貫守ったと言うことが熱く語られた。トップの強い意志が職員全員に染み渡り、緊急時の行動へと結びついたと言うのが印象的であった。

また、浄水場を止めないために「受電系統を洪水から守

る」ということをかけ、市民の協力を得るという方針も掲げ、多くの市民を借り出して、土嚢つくり、浄水場へ水の浸入を防ぎ、また、口にする飲料水を配るためにビニール袋を配り、給水拠点で市民への水配りのために職員の配置し、また、そこでも市民ボランティアの協力を得ている。

浄水場の水処理過程における薬品投入は、想像を絶するような対応であったが、この点は、前号のワクワク・ネットのニュースレターにニサパットさんの寄稿が掲載されているので、ご覧頂きたい。

3、個人的なおはなし

ところで、タイは、1987 年に初めて JICA 専門家として派遣されたところ。NWTTI プロジェクトは経営部門があり事務系職員の私でも参加できた。海外経験もそのときが初めてということで、個人的には MWA は“初恋”の相手のようなところである。その後、国内では MWA の方々とは数え切れないほどの交流があったが、バンコク訪問は 1993 年、2000 年、2010 年と 3 回である。1993 年はマニラでの ADB 会議に参加した際に足を延ばして石田寅三さん(元東京水道、NWTTI フェーズ I と II の繋ぎ役)のいる NWTTI へ。2000 年は NWTTI プロジェクト終了記念セミナーに参加。

2010 年 8 月は、新たな 3 年のプロジェクト形成に向け JICA 調査団が派遣されたことにあわせてセミナーが開催され、そこに OB として芳賀秀寿さん、斉藤博康さんとともに出席させてもらった。(このときの模様は水道公論 2010 年 10 月号に報告)

WaQuAC-NET メンバーには MWA 職員もいて、日本側には MWA ファンが大勢いると思うが、今後も継続的な交流を期待したい。



左から松井、シビライ、工藤、笹山各氏

東北大震災の被災地・石巻へ

佐々木 真一
(横浜市水道局)



4 月 4 日。東北新幹線の仙台駅からレンタカーに乗り換えて、東北大震災の被災地石巻市を目指す。シビライ、ニサパット、山本、笹山、

佐々木の 5 名。昨夜、東京で荒れ狂った暴風が北上し、三陸自動車道は速度制限しており、車体は右へ左へと吹き流され、あと少しでグライダー状態。やっとの思いで石巻着。早速 398 号線で港へ向かう。数分走ると、突然広大な荒涼とした石巻港長浜地区が現れる。被災当時の瓦礫は片付けられ、家の基礎枠を見て町並みを想像するしかない。皆は、あ然として平坦な周囲を見回すばかり。ンッ？中央分離帯に誰かコーラの缶を投げ捨てた？にしては大きい！次第に近づく巨大なタンクが半分凹んで鎮座している。瓦礫撤去は進んでいるが、当時の惨状を忘れない



でと言っているモニュメントのよう。

門脇、南浜地区の山側の麓にある、三階建て三十教室の門脇小学校に行く。コンクリートの外壁の半分以上が黒く焦けているのは、濁流に押されて突進してきた自動車がプロパンガスボンベに激突、発火し、後に続く車と共に延焼した焼け跡とのこと。屋外プールの洗い場でまたビックリ！

洗眼用給水栓も普通給水栓も、全てが U の字に折れ曲がっている。これを曲げる水の力を想像できない。

子供の声が絶えた校庭を、皆、圧倒的な破壊を目にして声も無く歩く。向かいから中年の婦人が歩いてきて挨拶を交わす。



彼女の息子が東北の大学を卒業した。その際、お世話になり触れ合ったかもしれない人達が、被災して苦しんでいるのを座視できなく、お見舞いする気持ちで岐阜から来たそうで、我々一行の二人が、タイから視察に来たことを知って感心していた。校庭での立ち話であったが、重苦しい状況での人との触れ合いは、お互いにホッとした感情を抱かせた。



今は閉鎖されている市民病院の脇を通り抜け、日和山に向かう。

日和山の山頂（標高 56.4m）で松籟を聞きながら見下ろすと、広大で平坦な被災地が東西に長く横たわっている。その中にポツリポツリと破壊された大型建造物が点在している。公園脇の工房喫茶「かざみどり」で遅い昼食を摂る。出立際、店の奥さんが挨拶に出て立ち話。「県外から来た

人たちには、震災前の石巻の様子が想像できないと思うんだけど、ここから見た町は海岸まで屋根しか見えないほど建て込んでいて、沢山の人たちが生活する活気のある漁師町だったのよ。真っ黒な大津波が来て、家も人もあつという間に飲み込まれてしまった。避難できた人たちは着の身着のままで日和山神社の急な参道を駆け上がってきたのよ。何百人もの人達が境内や公園で抱き合って家族の名を呼んだり、泣き叫んだり、もう大変な大騒ぎだったのよ。そんな最中に門脇小学校の生徒たちが三階の教室から裏山へ板を渡して避難してきたのよ。一時歓声が沸いたわ。翌日からは家族友人を探す人たちが瓦礫の中へ、その人たちを炊き出しで援助したの。今はもう瓦礫が片付けられてしまっきれいになったけど、その頃の事を想像して見て欲しいの。そして、ありのままを多くの人に伝えて欲しいの。」

日和山を降りると、旧北上川に突き当たる。川沿いの一帯は船の墓場。数十トンから数百トンの漁船があちこちの陸上に転がっている。

車は女川街道（398 号線）で女川町へ、ここも山を背負った漁港は津波で壊滅。瓦礫が撤去され荒涼とした地に、数棟の鉄筋コンクリート製のビルが基礎部分ごと地面から抜けて横倒しになっていた。町はこのビルを被害資料として保存することを決めている。この街道の先には女川原子力発電所があり、さらに先には太平洋岸に面した集落が点在する。



初めのうちは、被災地をただ見て回ることに少し後ろめたい、気が咎める感じがしていた。しかし、現地に立って想像を絶する津波被害の惨状を目の当たりにして、気持の様が変わった。大災害の実情を真摯に受け止め、多くの人に伝えたい。そのためには、もっともっと見て歩きたい。その土地の人の話を直に聞きたい。しかし、残念ながら夕暮れが迫り、視察の興奮冷めやらぬ中ではあるが、次の予定に向けて仙台へ戻った。

第 6 回 ミニツドの準備 と 中止

WaQuAC-NET では、タイから Ms. Sivilai と Ms. Nisapas を招聘するのに合わせて、ミニツドの実施を企画致しました。内容は、お二人に洪水時の MWA の対応についてご紹介戴くことを目的として、実際に取られた水質保全手段、広報活動、ボランティアの協力などについての発表を頂く予定でした。ミニツドは 4 月 3 日に開催予定とし、準備をし、タイのお二人には発表資料をご用意戴いていたのですが、4 月 3 日と言えば、関東圏に暴風が吹き荒れたあの日であります。お二人は水道協会での発表を行ったあと、ミニツドの開催会場(ルノール四谷の会議室)へ移動して戴く予定でしたが、暴風のために多くの会社で帰宅指示が出されるに至って、開催の中止を決定いたしました。会員の皆さまには楽しみにされていた方も多かったと思いますが、天災には勝てませんでした。水道協会でご発表頂けたことだけでも幸いでした。当日は事務局の不手際で、参加予定の皆さまに

開催中止のご連絡が遅れご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。思わぬ事態ではありましたが、次回以降のこのようなイベントでは、今回の反省を生かしていきますので、引き続き宜しくお願いいたします。

(亀海泰子 国際航業)

旧交を温める

4 月 2 日 歓迎会・市谷



4 月 4 日 懇親会・仙台



4 月 6 日 送別会・新宿



<2012 年総会の報告>

2012 年 3 月 22 日、新宿で、13 名参加で開かれました。笹山さんがベトナムから一時帰国していて奥さんと一緒に参加しました。

まず、昨年の活動報告と会計報告があり、次に 2012 年活動計画が承認されました。その後 4 時間近くも飲んだり話したり盛り上がりしました。

解散後、某古参会員(といっても WaQuAC-NET はやっと 4 年目です)が若者 2 名の研修と称して、おなじみの某横町(新名称; 思い出横丁)へと連れて行きました。 (山本)

参加者: 坂本、菅原、堀江、工藤、佐々木、下村、山本、笹山夫婦、中之藺、横山、武部、亀海



***** 新会員の紹介 *****

小野 好信 さん



はじめまして、横浜市水道局の小野好信です。私は昨年の 9 月から 12 月にかけて JICA で実施中の「ベトナム国中部地域 都市上水道事業体 能力開発プロジェクト」の短期専門家としてフエに派遣されていました。本プロジェクトは、ベトナム中部地域において安全な水が供給されるために、水安全計画(WSP)に関する水道事業体の人材育成を行うものです。私は設備の維持管理専門家として、中部水セクター研修センターやフエ省水道公社の職員にレクチャーを行いました。

10 月には研修センターが水道設備維持管理に係る研修コースを開催しましたが、グループディスカッション方式を取り入れたことにより活発な議論が行われ、受講者全員のレベルの底上げを図ることができました。また、講師のベトナム人が研修期間中に自発的に、研修内容の改善を図ったことは、プロジェクト終了後の継続性の観点からも非常に大きな成果となりました。

初めての海外での仕事でしたが、非常に充実した 3 ヶ月を送ることができました。しかし、私が派遣期間中に出くわした場面の中には、導入した設備が適切に機能していない事例や、給水量の増加により設備の運転状況が変化しポンプのキャビテーションが発生している事例や、労働者安

全に対する意識と行動が不十分な事例などがあり、設備の適切な維持管理に関し依然として多くの課題を抱えていると感じました。今後も何らかの形で継続的に関わりたいと考えていたところ、鎗内さんからお声をかけていただきメンバーに登録させていただきました。私はいつも「WaQuAC-Net」を「ワクワクネット」と読んでしまうのですが、実際にワクワクしながら活動に参加できたらと思っていますので、よろしくお願いします。



レクチャーの様子(危険予知活動)



研修コースの様子(中央が講師の Mr. Khoi)

新規メンバー紹介 (申し込み順・敬称略)

- 小野 好信
- 佐伯 孝志

◎会員をご紹介ください◎

趣旨に同意いただける方を募っております。
入会は事務局まで。

WaQuAC-NET 会報 第 14 号

発行: 2012 年 5 月 31 日

WaQuAC-Net 事務局

連絡先: waquac_net@yahoo.co.jp (鎗内)

URL: <http://www.waquac.net>

今後の活動予定

2012 年 5 月 Newsletter no.14 発行

2012 年 8 月 会報 第 15 号発行

2012 年 9 月 専門家派遣(タイへ)